

田川市中学校剣道プログラム（TCKP-1）の策定とその評価

池 田 孝 博

要旨 本研究の目的は、田川市剣道学習プログラムを策定し、その有効性を確認することである。I 中学校の1年生21名（男子11名、女子10名）を対象に、10時間の試験的授業を実施し、学習者による授業評価と授業に観察参加した教師によるピアレビューを実施した。今回のプログラム策定（TCKP-1）にあたっては、学習環境・条件から、内容について、「面」「胴」に技を限定し、形の学習を中心的課題とした。学習者による授業評価、単元評価および、教師によるピアレビューにおいては、概ね肯定的な評価がみられ、TCKP-1の有効性が確認された。ただし、教師自身の授業への見通しにおける不安感は回を追うごとに増加している。教師の不安を払拭するための手立てとして、学習プログラムのさらなる工夫と、教師のニーズに合った研修の充実が求められる。

キーワード：武道必修化、保健体育、授業評価、ピアレビュー

I 緒言

平成20年3月に改訂された小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領、平成21年3月に改訂された高等学校学習指導要領において、保健体育については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視する観点からの改善が図られた。その中でも特に中学校においては、多くの領域の学習を充分させた上で、その学習体験をもとに自らが探求したい運動を選択できるようにするため、第1学年及び第2学年で「武道」を含むすべての領域を、すべての生徒が履修することになった（文部科学省，2010）。すなわち、今般体育または武道の分野で大きな話題となっている、いわゆる「武道必修化」問題は、武道が特

別扱いされるのではなく、ダンス同様にこれまで選択領域であった武道が、他の運動領域と同等に扱われることを意味している。しかしながら、武道には、その歴史的・伝統的特性から、教育基本法に示される「人格の完成」や「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国の郷土を愛すること」など、日本の伝統文化学習によって、保健体育の学習目標よりも大きな枠組みでの教育効果も期待されている（全日本剣道連盟，2009）。これらを背景としてか、近年、中学校周辺地域の武道実践者が、保健体育の授業に加わるチームティーチング（TT）授業が展開されていることが報告されているが、その一方では、武道を専門性としない現場の教師による体育の授業研究も盛んに行われている（小山，1997，2005）。教育効果を向上さ

せるための、TT授業は十分活用されるべきであり、否定されるものではない。また、日本伝統文化としての武道を学習するために、優れた専門家を招聘し、その内容に触れさせることの教育的意義も大きいと思われる。しかしながら、他の運動領域と同様に、多くの領域を学習させる機会を与えることが求められている保健体育の内容の一つとしての武道においては、現場の教師が学習指導を行う能力を身につけるべきであり、また一方で、武道の学習は、教師にとって指導しやすい内容として設定されることが求められる。

ところで、福岡県田川市では2012（平成24）年度の武道必修化完全実施に向けた準備として、2010（平成22）年に「武道に関する検討委員会」を発足した。この検討委員会は、教育委員会と市内の中学校（6校）の管理職および保健体育科教諭によって構成される。この会議の中で、田川市における武道必修化への対応として、市内全中学校における統一的なカリキュラムとして剣道を実施することが決定された。しかしながら、市内の中学校に剣道を専門とする体育教師は不在であり、さらに剣道の指導経験を有する教師もいない状況にある。そのような中で、完全実施に向けた教育プログラムの策定およびそれに伴う備品などの検討が急務となっている。

そこで本研究では、田川市と福岡県立大学の連携によって、教育委員会、中学校現場の保健体育科の教師、剣道の専門性を有するスポーツ科学研究者の協働によって、「田川市剣道学習プログラム（TCKP; Tagawa-City's Kendo Program）」を策定することを目的とする。さらに、学習プログラムの有効性を確認するため、実際に試験的な授業を実施した上で、学習

者による授業評価と授業に観察参加する教師によるピアレビューによる検証を行う。

II 方法

1. 手順

1) 対象校、実施学年・クラスの選定

策定するTCKP-1は、体育分野のすべての領域を学ぶことが定められている（文部科学省、2008）、第1学年及び第2学年のうち、学習者の身体的、精神的、社会的な発達段階を考慮して、第1学年に配当することとした。また、実際に授業として行うモデル校は、田川市内の中学校6校のうち、1学年1クラスであり、男女の人数比もほぼ等しく、時間割調整を行いやすい等の観点から、I中学校を選定した。対象となったI中学校1年生（1クラス）の人数は、21名で男女の内訳は、男子11名、女子10名である。

2) 授業回数および実施期間

試験的な授業の実施期間は、保健体育の年間授業計画を考慮して、第2学期で運動会開催後にあたる10月から12月までに設定した。また、授業担当者や、ピアレビューを行う教師の都合を踏まえ、1週間の中で1時間、決められた時間枠に固定した。具体的には、短縮授業の期間内であっても、50分の授業時間に影響が少ないと思われる木曜日の5時間目（定刻13:45から14:25）に設定した。結果的に、確保された授業回数は10回であった。

3) 学習内容設定のための授業条件

今回策定するプログラム（TCKP）における基本的な考え方は、授業を実際に行うことが可能であることが条件となる。検討委員会設置時において、剣道を実施するための施設・用具は、

剣道部があり、剣道場を有する1校を除いて、全く整備されていない状況にある。そこで、本研究では、防具を用いた竹刀打ち込み方式による授業プログラムは今後の課題とし、剣のみ（竹刀または木刀）を用いた条件下での学習プログラム（TCKP-1）を作成することを決定した。

4) プログラム策定者・授業担当者

TCKP-1の策定および試験的授業を担当する者については、次のような条件を考慮した。①文部科学省が定める教育機関において20年以上の教職歴を有し、そのうち中学校での教育経験を有する。②教員養成を専とする4年制大学の学部において、教職希望の学生を対象とした剣道の授業経験を有する。③全日本剣道連盟の段位を有する。④スポーツ科学研究に従事し、体育科教育研究や測定評価研究に関わる業績を有する。以上のすべての条件に見合う該当者が選定され、プログラムの策定と試験的授業が進められた。

5) プログラム評価

TCKP-1の有効性に対する評価は、実際に授業を受ける学習者（中学生）と授業を担当することが求められる中学校の保健体育教師の2者の視点から行った。

学習者による評価では、毎回のプログラムについて授業後に、資料3に示す項目（浅見，2011a，2011b）を用いて検討した。また、単元（10時間）の終わりには、剣道の単元全体に対する評価を求めた。単元全体に対する評価票は、資料4に示している。

ピアレビュー（西垣，2004）の観点で行った教師による評価では、毎回の授業後に観察参加している教師の視点で、授業実践者が行った授業に対する客観的な評価と、観察した教師が実際に同じ学習プログラムを実施する場合の見通

しについて回答を求めた。使用した評価票は、資料5に示している。具体的な項目は、インストラクション・デザイン（ID：Instruction Design）の理論（島宗，2004）にもとづいて設定した。また、学習者と同様に、10時間の終わりには、単元全体に対する意識や感想を、資料6に示す評価票を用いて確認した。

Ⅲ 結果及び考察

1. 学習プログラム

資料1に単元全体を通した計画、資料2に各授業回における学習指導案を示している。今回授業を行う田川市の中学校には、学習指導要領に示されている、「実際に技を試しあう」内容を実施するための防具が整備されていない。そのような制約から、このTCKP-1では、小山（1997，2005）、岡田（2009）、高橋ほか（2009）、全日本剣道連盟（2009）を参考に、防具を用いず剣（竹刀および木刀）のみを用いた授業を行うように計画した。

技に関しては、授業時間数や学習者の意識（全日本剣道連盟学校体育部会，2011）を考慮して、中学校の禁止技である「突き」以外に、「小手」も学習内容から外して配列した。

2. プログラムの評価

1) 学習者による評価

TCKP-1に対する学習者の評価は、形のテストを行う10時間目を除く、9回の授業後に実施した。各授業時間における評価項目ごとの学習者全体の平均値を表1に示している。平均値としては、2回目の「深く心に残ることや感動することがありましたか」における2.2がもっとも低く、これ以外はすべて2.5以上の高い値を示し

表1 学習者による授業評価（第1回目から第9回目）

項 目	授 業 回 数								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A. 深く心に残ることや感動することがありましたか	2.4	2.2	2.5	2.6	2.4	2.6	2.6	2.7	2.6
B. 今までにできなかったこと（運動やわざ）ができるようになりましたか	2.6	2.7	2.7	2.7	2.9	2.8	2.8	3.0	2.5
C. 「あっ、そうか」とか「あっ、わかった」ということがありましたか	2.5	2.3	2.6	2.8	2.5	2.6	2.7	2.8	2.7
D. 全力を尽くして運動することができましたか	2.6	2.9	2.8	2.7	2.8	2.9	2.7	2.8	2.9
E. 楽しかったですか	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9
F. 自分から進んで学習できましたか	2.9	2.7	2.8	2.9	2.8	2.8	2.9	2.8	2.8
G. 自分の目標に向かって何回も練習できましたか	2.5	2.7	2.6	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7
H. 友だちと協力して、なかよく学習できましたか	3.0	2.9	2.8	2.8	2.9	2.9	2.8	2.9	2.6
I. 友だちとおたがいに教えたり、助けたりしましたか	2.5	2.5	2.6	2.6	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9
平均値	2.63	2.62	2.71	2.75	2.76	2.80	2.76	2.85	2.72

註) 全質問に対して はい (3点)、どちらでもない (2点)、いいえ (1点) で点数化

た。回数に関しては、8回目の2.85、6回目の2.80が高い。8回目の授業は、応じ技の学習で、相手とのタイミングを合わせる必要や、左右への足さばきが求められる高度な内容である。また、6回目の内容では、つばぜり合いからの引き技を扱っており、接近した状態や、後方へからだを運んでの技に興味を示されたと思われる。

10時間の学習を終えた後に、剣道の単元全体に対する評価を求めた。結果は、図1に示している。もっとも評価が高かった項目は、Q7「剣道は真剣にやれば安全だと思う」で10段階評価の8.0を示した。また、Q2「たくさんの技を学びたい (7.4)」、Q5「木刀より竹刀で打つ形がしたい (7.3)」、Q10「防具をつけて剣道がしたい (7.1)」および「総合的な満足度 (7.3)」

はいずれも7点以上で高い評価になった。一方、剣道に対する否定的な評価である、Q3「武道なら柔道がしたい (2.1)」、Q8「剣道は怖い (4.5)」に関してはいずれも低い値を示した。学習の進め方によって、剣道に対する不安はある程度払拭できると思われる。また、様々な技の学習には、高い興味を示されており、学習内容を配列する上での重要な示唆となる。

2) 観察参加教師によるピアレビュー

各授業回に対する教師からのピアレビューの結果を、表2に示している。5段階評価であるため、3.0を基準とすると、AからHは内容の良い面を評価する項目であるが、いずれも基準を超えており、肯定的な評価を受けていること

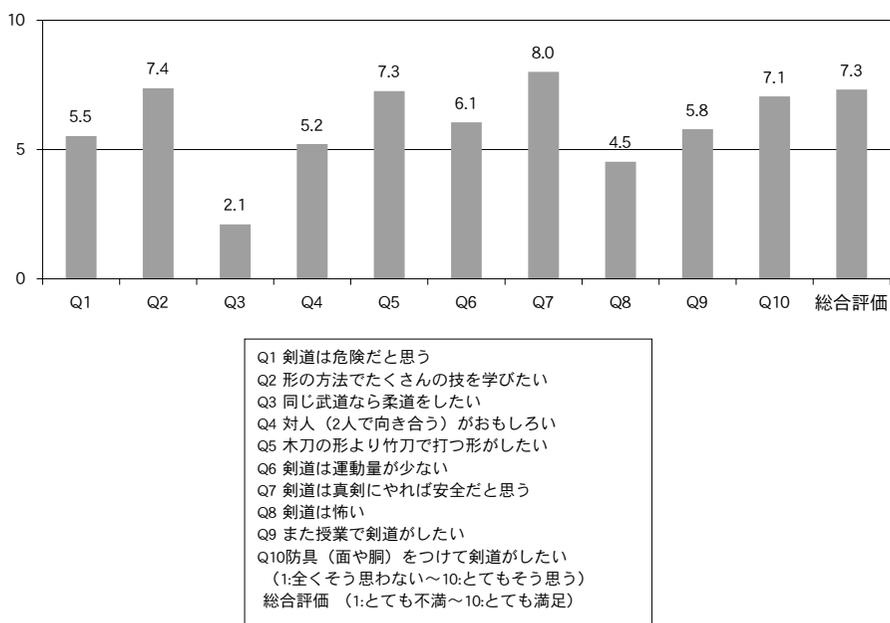


図1 学習者による単元評価

が窺える。一方、問題点を指摘するIおよびJの項目でも、ほとんどが基準を下回り、問題はないことを示しているが、第3回目および4回目の授業について「生徒が学習する内容が多すぎる」ことを指摘する結果となっている。これらの授業は、単元の中の「なか」の1回目、2回目にあたり、それまでの基本動作から「わざ（仕掛け技）」の内容への導入・展開がみられた授業である。基本動作は個人的な学習であるが、わざの学習では対人的な要素が多くなり、学習者の理解度にも格差が生じてくることが懸念される。

次に、観察参加教師自身が、実際に授業を行うとした場合の見通しについては、「できそうである」に関するaからhについて否定する評価（3.0未満）と「不安がある」ことを示すiやhを肯定する評価（3.1以上）は、授業回数を追うごとに増加する傾向がみられ、技の深ま

り、技数の増加等に伴って、自分自身で授業を行う見通しに自信がなくなることが示された。特に、最終の10回目の形のテストの授業では、ほとんどの項目で見通しに対する自信が低い結果が示されており、技の評価能力に関する課題が明確になった。

単元全体に対する評価は、図2に示している。「Q1自分で授業を行う見通しが立った」、「Q2この内容を参考に学習量を少なくしてゆっくり指導したい」などに肯定的な評価がなされる一方で、「Q4全く別のプログラムをつくり必要を感じる」について否定的な評価が示されており、TCKP-1のプログラムとしての有効性は認められたと思われる。しかしその一方で、「Q6見本を示す自信がある」の評価が低く、「Q13自分が見本を示せるようになるための研修がしたい」は高い評価になっていることから、教師に向けた研修が今後の課題となる。

表2 観察参加教員によるピアレビュー（第1時間目から第9時間目）

項 目	授 業 回 数								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A. 教えていることが明確な内容である	4.5	4.6	3.7	4.6	4.1	4.2	3.8	4.4	4.0
B. 生徒の学びを保証した内容である	4.5	4.3	3.9	4.4	4.3	4.0	3.8	4.3	3.7
C. 教える目的が明確な内容である	4.6	4.4	3.6	4.3	4.4	4.0	3.7	4.4	3.9
D. 成功の基準が明確な内容である	4.1	4.1	3.9	3.9	3.6	3.6	3.7	3.8	4.0
E. 行動目標を確認できる内容である	4.4	4.1	3.6	4.3	3.9	4.0	3.7	4.1	3.9
F. 目標となる行動を引き出せる内容である	4.5	3.9	3.9	4.3	3.9	3.7	4.0	4.0	3.4
G. 学ばせて、楽しませる内容である	4.7	4.3	3.3	3.9	3.1	3.6	3.8	3.9	3.3
H. 個人差に配慮した内容である	3.5	3.1	3.4	3.6	3.0	3.0	3.5	3.4	3.0
I. 生徒にとって易しすぎる内容である	2.6	2.0	2.9	2.3	2.5	2.0	2.7	2.1	1.9
J. 生徒が学習する内容が多すぎる	1.8	2.0	3.3	3.3	2.4	2.4	2.2	2.5	2.9
a. 生徒の学びを保証できそうである	4.3	4.0	3.6	3.7	3.5	3.7	3.3	3.4	2.5
b. 標的行動を見せることができそうである	3.5	3.7	3.7	3.0	3.3	3.2	2.7	2.9	1.8
c. 目標となる生徒の行動を引き出せそうである	3.8	4.1	3.6	3.6	3.1	3.3	3.3	3.5	2.2
d. 引き出した行動が強化（誉める）できそうである	3.7	3.9	3.1	3.6	3.4	3.2	3.2	3.6	2.3
e. 正しい行動を教えることができそうである	3.6	4.0	3.3	3.3	3.1	3.0	2.8	3.0	2.2
f. 誤った行動を教えることができそうである	3.6	3.6	3.1	3.3	2.6	3.2	2.8	3.0	2.8
g. 学ばせて、楽しませることができそうである	4.1	4.0	2.6	3.6	2.9	3.0	2.7	3.4	2.3
h. 個人差に配慮した指導ができそうである	3.2	3.1	2.7	3.0	2.9	2.9	3.0	3.1	2.3
i. 指導する内容が難しすぎる	2.4	2.4	2.9	3.1	2.6	2.8	3.0	3.0	3.3
j. 取り扱う内容の量が少なすぎる	2.0	2.7	2.6	2.0	2.5	2.2	2.3	2.1	1.8

註) 回答の選択肢 [1:全くそう思わない 2:そう思わない 3:どちらともいえない 4:そう思う
5:とてもそう思う]

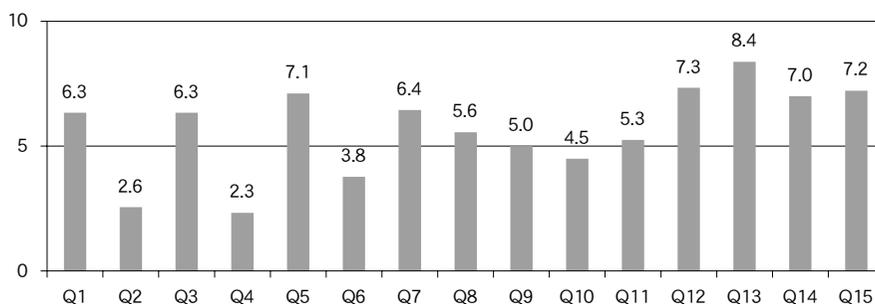
なお、「Q14剣道を行うことの意義」に高い評価がある一方で、「Q15不安に感じる」でも同様に評価が高いことから、現場の教師の不安を払拭するための手立てとして、研修に加えて、さらなるプログラムの検討が求められる。

IV まとめ

中学校保健体育科における武道の必修化に

伴って、福岡県田川市内の中学校で行うための、防具を用いず、竹刀・木刀のみによる10時間の剣道学習プログラム（TCKP-1）を策定した。さらに、実際にそのプログラムを授業として実施し、その内容について検証した。結果は以下の通りである。

1. プログラムにおいては、「面」「胴」に技を限定し、形の学習を中心的課題とした。
2. 学習者による授業評価では、「つばぜり合



Q1 自分で授業を行う見通しが立った
 Q2 もっとレベルの高い内容に工夫できそうである
 Q3 この内容を参考に学習量を少なくしてゆっくり指導したい
 Q4 全く別のプログラムを作る必要を感じる
 Q5 剣道にはTAの協力が不可欠である
 Q6 見本を示す自信がある
 Q7 生徒の良いモデルの見極めができそうである
 Q8 木刀による形の学習でも生徒の興味を喚起できそうである
 Q9 授業で使ったゴム製木刀でも安全性に問題がある
 Q10 形の学習と竹刀防具打ち込み形式の学習では形の方が危険である
 Q11 形の学習は竹刀防具で行うべきである
 Q12 竹刀防具による剣道授業で同じような取り組みが必要である
 Q13 自分が見本を示せるようになるための研修がしたい
 Q14 形であれ、竹刀防具であれ中学生に剣道の授業を行うことの意義を感じる
 Q15 形であれ竹刀防具であれ、生徒の実態を考えると剣道を教えることに不安を感じる
 (1:全くそう思わない～10:とてもそう思う)

図2 観察参加教師による単元に関する評価

いからの引き技」や「応じ技および左右への体さばき」を中心課題とした授業の評価が高かった。

3. 学習者による単元評価では、剣道に対して高い興味・関心が認められた。また、不安・恐怖感への対応も、授業の進め方によって払拭できる可能性が示唆された。
4. 教師によるピアレビューにおいては、概ね肯定的な評価が認められた。ただし、基本動作から技への導入にはスモールステップや内容の整理が必要である。
5. 教師自身の授業への見通しにおける不安は、回を追うごとに増加している。学習プログラムのさらなる工夫と、教師のニーズに合った研修の充実が求められる。
6. 教師による単元への評価では、TCKP-1の

有効性が確認された。「見本を見せられること」など、教師の不安を払拭するための手立てが必要である。

付記

本研究の一部は、平成24年度「田川市と福岡県立大学との共同事業助成金」（研究課題名「中学校保健体育科における武道必修化に伴う剣道授業プログラムおよび評価方法の検討」研究代表者：池田孝博）の補助を受けて実施された。

文献

- 浅見裕（2011a）剣道好きをつくる指導（上），スキージャーナル社。
 浅見裕（2011b）剣道好きをつくる指導（下），スキージャーナル社。

- 小山吉明 (1997) 剣術から剣道、そしてKENDOへ、
体育科教育, 45(9): 50-52.
- 小山吉明 (2005) 実技と体育理論で学ぶ「武道文化」
の授業, 体育科教育, 53(11): 48-51.
- 文部科学省 (1993) 剣道指導の手引き.
- 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説 保健体
育編, 東山書房.
- 文部科学省 (2010) 新しい学数指導要領の基づく剣道
指導に向けて (学校体育実技指導資料第1集「剣道
指導の手引」参考資料).
- 西垣順子 (2004) 授業のピアレビューを中心とする教
育改善の試み, 京都大学高等教育研究, 10: 33-43.
- 岡田幸一 (2009) 「武道の必修化」への対応, 移行期か
らできること, 体育科教育, 57(1): 50-53.
- 島宗理 (2004) 教師のためのルールブック インスト
ラクショナル・デザイン, 米田出版.
- 高橋健夫・米村耕平・山神真一 (2009) 校長先生が教
えてくれた剣道の授業, 体育科教育, 57(7): 73-75.
- 巽申直・恵土孝吉・本村清人 (2004) 新しい剣道の授
業づくり, 大修館書店.
- 全日本剣道連盟 (2003) 木刀による剣道基本技稽古法.
- 全日本剣道連盟 (2009) 剣道授業の展開.
- 全日本剣道連盟学校体育部会 (2011) 中学校武道 (剣道)
に関する調査報告書; 平成24年度完全実施中学校武
道必修化に伴う実態調査, 全日本剣道連盟.

資料1

単元計画

	時	ねらい・学習活動
はじめ		<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○剣道の歴史(稽古法)を理解しよう ○技に必要な基本的動作を身につけよう
		<p>学習の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構え、体(足)捌き、間合、掛け声、刃筋、物打ち ・真剣に取り組む意義 ・健康・安全の留意点
	1	<p>1. 活動Ⅰ「剣道の理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライド学習を通して剣道の歴史や特性を理解する <p>2. 活動Ⅱ「基本動作と基本技の修得」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な動作として刃筋を意識して木刀を操作する
2	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な動作を身につける 刃筋正しい振りに加えて、振りとめる、打つ、すり足・送り足移動を行う 	
なか		<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手の動きに応じて攻防する技を身につけよう ○練習相手を尊重する心を理解し、その方法(礼法)を身につけよう ○剣道の稽古法に含まれる伝統的な所作を理解し、実践しよう
		<p>学習の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼法、所作 ・一本打ちの技、二段技、引き、抜き、打ち落とし、受け方 ・打突の機会
	3	<p>1. 活動Ⅰ「基本の技」「仕掛けていく技(その1)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な動作に基づいて基本技の動作を身につける ・対人的な学習の中で相手を尊重した礼法・所作を身につける
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・構えから隙を発見し、それに乗じて仕掛ける技を身につける
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・技を出した後にできる隙を発見し、連続して仕掛ける技を身につける
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・鏝競り合いから隙を発見し、それに乗じて仕掛ける技を身につける
	7	<p>2. 活動Ⅱ「応じる技」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が出した技をかわしてできた隙に直ちに技を出す(抜き技)
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の木刀を制してできた隙に直ちに技を出す(打ち落とし/すりあげ技)
	まとめ	
		<p>学習の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形の演武、得意技 ・役割理解 ・必要な体力、課題に応じた運動
9	<p>1. 活動Ⅰ「形の演武練習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した基本技を復習して、正しい動作で演武する 面、面胴、引き面、面抜き胴、胴打ち落とし面 	
10	<p>2. 活動Ⅱ「基本技の演武と相互評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本技を演武し、その完成度について生徒による相互評価を行う 	

資料2

本時の展開(1/10時間)

1. 本時のねらい
 - ・剣道の歴史学習を通してその技術的特性(刃の方向にそって振る)を理解する。
 - ・「振る」ための準備としての構えを理解し、その姿勢がとれる。
2. 本時の学習評価
 - ・木刀を刃の方向にそって振ることが出来る。
 - ・2本の木刀で出来た隙間をその木刀に触れないように振る(木刀間差振り)
 - ・木刀を振りおろして新聞紙を真っ直ぐ切る(新聞斬り)

	学習内容・活動	評価方法及び評価基準
はじめ	1. ランニング(軽いペースで体育館3周)を行う。脱靴 2. 整列・あいさつ、本単元の意義・ねらいと本時のながれの説明を受ける。 3. スライドを見ながら説明を聞く。 【剣道の歴史と特性】(「スライド1.pptx」) 4. 準備体操を行う。 (1)各関節のストレッチ (2)本時のねらいにつながる運動動作	刃筋を理解し、それを意識して木刀操作できるか評価する ○本時のねらいを理解させる ・組んだ拳を身体の内側で上下させる ・新聞紙を配布して折らせる ・木刀を配布する ・姿勢は自然体 ・細かい指差は極力避ける ・刃を下向きにさせる ◎正しい構えがとれている 【観察評価】 ◎刃筋正しく触れている 【観察評価】
なか	5. 刃筋正しく振るための「握り」の感覚をつかむ (1)新聞紙による感覚の理解…掌全体で新聞を握る(濡れない様に) (2)木刀の感覚…(1)と同じ意識で木刀を握る 6. 三つの「構え」の説明を聞き、その姿勢をとる練習をする。 中段:左手をおへその前に置くこと、木刀の先(剣先)を自分の喉の高さにすること 上段:握りはそのまま、肩関節を動かして、左手を頭上にあげること 下段:上段から剣先が真上を向くように手首を伸ばし、そのまま左手をおへその前まで持つこと、剣先が喉の高さ 7. 三つの構えに素早く変化しながら、刃筋の通った上下素振りを行う。 8. 3人のグループをつくり、振った時の刃筋を確認する。 (1)隙間振り…中段の構えで並んだ2人の木刀の間を振りおろす (2)発声(カウント)を付け上下素振りを行う ・10本単位で 声が出るまで (男女別、グループ別)	・協力して片付けるよう促す ・授業評価票(生徒用)の配布 ・つまづいている生徒へのアドバイスや生徒同士の学びあいの必要性を説明する。
まとめ	10. 木刀を用いた整理体操を行う。 11. 使った用具を片づける。 12. 本時のまとめを行う。 (1)授業評価を記入しながら、本時を振りかえる (2)教師の評価を聞く	・協力して片付けるよう促す ・授業評価票(生徒用)の配布 ・つまづいている生徒へのアドバイスや生徒同士の学びあいの必要性を説明する。

本時の展開(2/10時間)

1. 本時のねらい
 - ・刃の方向を意識して斜めに木刀を振る。
 - ・振りぬく(振り切る)動作との違いを理解し、定められた部位で振りを止める。
 - ・身体の移動を伴って木刀を振る。
2. 本時の学習評価
 - ・木刀を使ってソフトバレーボールをドリブルしたり、打ち返したりする(ボール操作)
 - ・木刀を振りおろしてボールの直前で止める(寸止め)

	学習内容・活動	評価方法及び評価基準
はじめ	1. ランニング(軽いペースで体育館3周)を行う。脱靴 2. 整列・あいさつ、本時のながれの説明を受ける。 3. スライドを見ながら説明を聞く。 【剣道の振りと打ち】(「スライド2.pptx」) 4. 準備体操を行う。 (1)各関節のストレッチ (2)本時のねらいにつながる運動動作	刃筋正しく振るから、打つ止める木刀操作できるか評価する ○本時のねらいを理解させる ・組んだ拳を定められた高さで止める(へそ、胸、肩) ・木刀を配布する ・姿勢は自然体を保たせる ◎刃筋正しく触れている 【観察評価】
なか	5. 前回の復習(刃筋正しく振る) ・中段、上段、下段の構えの確認と上下振り 6. 斜め方向の振り ・肩に担いだ姿勢(八相の構え)からの姿勢切りとその逆側 7. 振りとりとめる方法の説明を聞き、その練習をする。 上段の構え(振りかぶった姿勢から)手首を伸ばした後に剣先を面の位置で止める。 上段の構えから、肩関節を動かして、勢いよく振りおろし、斬を止める場所、それと同時に手首を伸ばす。 振り下ろす瞬間に木刀を振る(落下を受け止め距離で) 8. 2人組をつくり、木刀を使ってボールを操作する。 (1)ドリブル10回ずつ(交代) すり足(安定)・送り足(常に同じ足構えの維持) (2)パスをされたボールを上段から一歩前進して刃筋正しく打ち返す。 9. ボールへ寸止め (1)頭上にボールがある相手をめがけて木刀を振りおろし、直前で止める (2)「メン」の発声を伴って	・ソフトバレーボールを配布する ◎手首をうまく伸ばしているか ◎刃筋正しく使えているか 【観察評価】 ◎ギリギリで止まっているか ◎大きな声が出ている 【観察評価】
まとめ	10. 木刀を用いた整理体操を行う。 11. 使った用具を片づける。 12. 本時のまとめを行う。 (1)授業評価を記入しながら、本時を振りかえる (2)教師の評価を聞く	・協力して片付けるよう促す ・授業評価票(生徒用)の配布 ・つまづいている生徒へのアドバイスや生徒同士の学びあいの必要性を説明する。

本時の展開 (3/10時間)

- 本時のねらい
 - 相手を尊重して学習を行う態度を身につけ、同時に礼法や所作を通してそれを形に表すことができる。
 - 有効打突の条件を理解して、それにながった打撃動作を行うことができる。
 - 相手の顔(構えの崩れ)を観察し、そこから打つべき部位を発見して技を打つことができる。
- 本時の学習評価
 - 礼法(対象としての空・相手・所作としての立礼・脚蹠)を実践する【真剣味のある態度】
 - 移動(すり足・送り足)と打ち(刃防・物打ち・姿勢)の運動を結合させる。

	学習内容・活動	評価方法及び評価基準(◎)
はじめ	1. ランニング(軽いペースで体育館3周)を行う。脱靴 2. 整列・あいさつ。本時のながれの説明を受ける。 3. スライドをしながら説明を聞く。 【有効打突の条件と礼法所作1(「スライド3.ppt」)】 4. 正座と坐礼 5. 準備体操を行う。 (1)各関節のストレッチ (2)本時のねらいにつながる運動動作 (1)人権行進とお茶運び歩き (2)字刀反応※	これまでの学習(刃防・振り止めに)に基づき基本の技を対人場面で実践できるかを評価する ※字刀による準備体操運動 ①T手を下→S(メン)で手を上 ②T手を上→S(ドフ)で手を下す ・木刀を配布する
なか	6. 前回までの復習 (1)その場で上下振り・締め振り(刃防と姿勢(右自然体)の確認) (2)その場で正面素振り・左右脚蹠振り(刃防と姿勢と振り止め) 7. 移動と打ちの結合運動 (1)1歩前進後退正面素振り、2歩前進後退の左右脚蹠振り 習得を安定させて移動する＝すり足 右手・右足前の右自然体の姿勢を維持しながら移動する＝送り足 8. 2人組による基本の技の学習 (1)礼法①(6歩の間で提刀・立礼→帯刀→3步入って脚蹠しつて抜刀一立って構え) (2)中段の構えの確認(足構え・姿勢・剣先の位置・右拳の位置) (3)掛り手(打つ人)と元立(打たせる人)の役割理解 (4)元立らが構えを崩して打ち練習→役割交代 (1)一定一歩の割合いから相手の構えの崩れに対し大きく歩前進して面(または脚打ち・小さく歩引いて落ち、もつ1歩引いて元に戻る。 (2)崩れを小さくしながら、それへの反応を徐々に早くする。 (5)礼法②(構え→脚蹠・納刀→立って小さく歩後退→提刀・立礼) (6)相手交代 (1)→(5)の繰り返し (4)においては①から②へ移行	・尊重する態度を形に表すことを理解(真剣味) ◎正しい所作と真剣さ ・崩す態度を形に表すこと ◎正しい所作と真剣さ ・相手の顔(崩れ)を観察し、そこから打つべき部位を形に表すこと ◎真剣味(姿勢・部位・打ち・刃防・残心の条件が揃っているか)
まとめ	9. 木刀を用いた整理体操を行う。 10. 使った用具を片づける。 11. 本時のまとめを行う。 (1)教師の評価を聞く (2)授業評価を記入しながら、本時を振りかえる	・協力して片付けるよう促す ・つまづいている生徒へのアドバースや生徒同士の学びあいの必要性を説明する。 ・授業評価票(生徒用)の配布

本時の展開 (4/10時間)

- 本時のねらい
 - 礼法の意味を理解した上で、正しい所作を行うことができる。
 - 相手の反応に合わせて、有効打突の条件に合った動作を行うことができる。
 - 元立ち、掛り手を立場を理解して、安全に技の練習を行うことができる。
- 本時の学習評価
 - 正しい所作による礼法を実践する
 - 木刀で身に付けた技を竹刀で打つたり、受けたりできる。

	学習内容・活動	評価方法及び評価基準(◎)
はじめ	1. ランニング(軽いペースで体育館3周)を行う。脱靴 2. 木刀を持って整列 3. 正座、黙想(30秒)、坐礼 4. 本時の説明を聞く 5. 準備体操を行う。 6. 掛け刀・立礼、帯刀・掛り、脚蹠、自然体で中段の構え 7. 刃防正しく上下素振り、締め振り 8. 三拳動の面素振り・脚蹠素振り (1)振りかぶり (2)前進・振り止め (3)後退・残心を示しつつ中段に戻る 9. 肩降形(T-Ss)での面・脚打ち練習 Tの動き！ 	木刀で学習した基本動作と基本の技を竹刀で実際に打つ場面でも行えるかを評価する
なか	10. 対人形(Sm-Sk)での面・脚打ち練習 ・礼法(6歩の間で提刀・立礼→帯刀→3歩前進・脚蹠・抜刀)、構え ・SmはTの動きでSkに打ちの機会を与える ・SkはSmがつくった際に有効打突の条件を満たす打ちを出す ・役割交代する ・礼法(脚蹠・納刀→5歩後退→提刀・立礼)、相手交代 11. 肩降形での竹刀による面・脚打ちの打たせ方の確認  面の打たせ方  頭の高さで前方へ出す やや右を向く 12. 対人形での竹刀による面・脚打ち練習 ・10の要領で相手の竹刀を打つ	◎刃と打つべき部位の確認 ◎発声・姿勢・刃防・移動・振り止め・残心 Sm:元立ち(Tの動き) Sk:掛り手 ◎正しい所作 ◎発声・姿勢・刃防・移動・物打ちでの振り止め・残心 ・木刀の回収 ・竹刀の配布 ・振り止めと打ち止め以外、同じ所作であることを強調する ◎発声・姿勢・刃防・移動・物打ちでの振り止め・残心
まとめ	13. 竹刀を用いた整理体操を行う。 14. 使った用具を片づける。 15. 本時のまとめを行う。 (1)教師の評価を聞く (2)授業評価を記入しながら、本時を振りかえる 16. 正座、黙想、坐礼	・協力して片付けるよう促す ・つまづいている生徒へのアドバースや生徒同士の学びあいの必要性を説明する。 ・授業評価票(生徒用)の配布

本時の展開(5/10時間)

1. 本時のねらい
 - ・礼法の意味を理解した上で、正しい所作を行うことができる。
 - ・相手の反応(引き)に合わせて、連続技の動作を行うことができる。
 - ・元立ち、掛り手を立場を理解して、安全に技の練習を行うことができる。
2. 本時の学習評価
 - ・立札から踵躍、刀の操作(提刀・帯刀・抜刀・納刀)ができる。
 - ・連続技の最初の技で正しい足遣い(送り足で構えに戻る)ができる。
 - ・木刀での止めと隙の作り方、竹刀でのワンハウンド止めと打たせ方ができる。

	学習内容・活動	評価方法及び評価基準◎
はじめ	1. ランニング(軽いペースで体育館3周)を行う。脱靴 2. 木刀を持って整列 3. 正座、黙想(30秒)、坐礼 4. 本時の説明を聞く 5. 準備体操・素振り(礼法の確認)を行う。 6. 四拳動の面素振り・胴素振り (1)振りかぶり (2)前進・振りとりめ (3)残心 (4)元の位置に戻る 7. 肩隊形(T-Ss)での面・胴打ち練習 8. 肩隊形(T-Ss)でのA)面打ち、B)面・胴打ち練習 (1)T: 剣先を置く (2)S: 面を打ちこむ T: 同時に一歩引く (3)S: 重立ちに木目の面を打ち (1)T: 剣先を置く (2)S: 面を打ちこむ T: 同時に一歩引く (3)S: 重立ちに胴を打ち (1)T: 剣先を置く (2)S: 面を打ちこむ T: 一歩引いて受け止める (3)S: 重立ちに胴を打ち ※T, S交代して元立ち練習 9. 対人隊形(Sm-Sk)でのA)面打ち、B)面・胴打ち練習 ・礼法(9歩の間で提刀・立札→一帯刀→3歩前進・踵躍・抜刀)、構え ・SmはTの動きでSkに打ちの機会を与える ・SkはSmがつくった隙に着効打突の条件を満たす打ちを出す ・役割を交代する ・礼法(踵躍・納刀→6歩後退→提刀・立札)、相手交代 10. 肩隊形での竹刀による面・胴打ちの打たせ方の確認 面の打たせ方 頭の高さで前方へ出す 肩の打たせ方 やや右を向く 11. 対人隊形での竹刀によるA)面打ち、B)面・胴打ち練習 ・9の要領で相手の竹刀を打つ 12. 竹刀を用いた整理体操を行う。 13. 使った用具を片づける。 14. 本時のまとめを行う。 (1)教師の評価を聞く (2)授業評価を記入しながら、本時を振り返らせる 15. 正座、黙想、坐礼	◎刃筋の確認 ◎刃筋が通った振り下ろし ◎面打ち後、構え足に戻る T:教師 S:生徒 Sm元立ち(Tの動き) Sk:掛り手 ◎正しい所作 ◎発声・姿勢・刃筋・移動・ 物打ちでの振り止め・残心 ・木刀の回収 ・竹刀の配布
まとめ		・協力して片付けるよう促す ・つまずいている生徒へのアドバースや生徒同士の学びあいの必要性を説明する。 ・授業評価票(生徒用)の配布

本時の展開(6/10時間)

1. 本時のねらい
 - ・後退動作の中でタイミングを合わせて竹刀を振ることが出来る。
 - ・相手を手を打つ間合いについて理解する。
 - ・正しいつばぜり合いの姿勢から、引き技が出る。
 - ・前進後退の素振りができる。
 - ・引き技においても物打ちで部位を捉えることができる。
 - ・つばとつばを合わせて身体の正面で相手と向き合った状態から後退での技が出せる。
2. 本時の学習評価
 - ・前進後退の素振りができる。
 - ・引き技においても物打ちで部位を捉えることができる。
 - ・つばとつばを合わせて身体の正面で相手と向き合った状態から後退での技が出せる。

	学習内容・活動	評価方法及び評価基準◎
はじめ	1. ランニング(軽いペースで体育館3周)を行う。脱靴 2. 木刀を持って整列 3. 正座、黙想(30秒)、坐礼 4. 本時の説明を聞く 5. 準備体操・前後の送り足の足踏み・素振り(礼法の確認)を行う。 6. 前進後退の正面素振り・面・胴素振り (1)振りかぶり (2)前進(右五)、振りおろし (3)左足後退・振りかぶり (4)右足引きつけ・振りおろし◎振り下ろしと右足の運動 7. 間合いとつばぜり合いの説明(板書) (1)一足一刀の間 (2)打ち間 (3)つばぜり合い 8. 肩隊形(T-Ss)での引込面打ち練習 (1)T: 剣先を置く (2)S: 面を打ちこむ T: 受け止める (3)T-S: 歩出てつばぜり合い (4)S: 引込面を打ち (5)S-T: 一歩引いて元に戻る ※T, S交代して元立ち練習 9. 対人隊形(Sm-Sk)での引き面練習 ・礼法(9歩の間で提刀・立札→一帯刀→3歩前進・踵躍・抜刀)、構え ・SmはTの動きでSkに打ちの機会を与える ・SkはSmがつくった隙に着効打突の条件を満たす打ちを出す ・役割を交代する ・礼法(踵躍・納刀→6歩後退→提刀・立札)、相手交代 10. 肩隊形での竹刀による面・胴打ちの打たせ方の確認 面の打たせ方 頭の高さで前方へ出す 肩の打たせ方 やや右を向く 元立ちは1歩前に出て手元を高く挙げて面を受け(掛り手はワンハウンドの面) あ互いに手元を下げてつばぜり合い(竹刀のつばぜり合いは掛り手のみ)。 11. 対人隊形での竹刀による引き面、引き胴練習 ・9の要領で相手の竹刀を打つ 12. 使った用具を片づける。 13. 本時のまとめを行う。 (1)教師の評価を聞く (2)授業評価を記入しながら、本時を振り返らせる 14. 正座、黙想、坐礼	◎引き技に必要な基本動作を習得し、後退しながら着効打突の条件を満たす技を出せるかを評価する ◎構えの足で前後にスムーズに動けるか ◎面打ち後、構え足に戻る T:教師 S:生徒 Sm元立ち(Tの動き) Sk:掛り手 ◎正しい所作 ◎発声・姿勢・刃筋・移動・ 物打ちでの振り止め・残心 ・木刀の回収 ・竹刀の配布 ◎発声・姿勢・刃筋・移動・ 物打ちでの振り止め・残心 ・打ち止めは、ワンハウンド 当たった瞬間に離って止める ・協力して片付けるよう促す ・つまずいている生徒へのアドバースや生徒同士の学びあいの必要性を説明する。 ・授業評価票(生徒用)の配布
まとめ		・協力して片付けるよう促す ・つまずいている生徒へのアドバースや生徒同士の学びあいの必要性を説明する。 ・授業評価票(生徒用)の配布

本時の展開(7/10時間)

1. 本時のねらい
 - ・応じ技を理解する。
 - ・タイミングを併せて体をさばく。
 - ・相手の技をかかわして(抜いて)、生じた隙に技を出す。
2. 本時の学習評価
 - ・仕掛け技との連いを説明することができる。
 - ・斜め方向の送り足をすることができる。
 - ・元立ちとの技を見極めて技を出すことができる。

	学習内容・活動	評価方法及び評価基準(◎)
はじめ	1. ランニング(軽いペースで体育館3周)を行う。脱靴 2. 木刀を持って整列 3. 正座、黙想(30秒)、坐礼 4. 本時の説明を聞く 5. 準備体操・送り足の足踏み(斜め方向)・素振り(礼法の確認)を行う。	抜き技に必要な基本動作を修得し、相手の技に応じて有効打突の条件を満たす技を出せるかを評価する ◎構えの目で斜め方向にスムーズに動けるか
なか	6. 板書説明 (1)剣道の技の分類：仕掛け技と応じ技 (2)応じ技の中の抜き技 7. 抜き技の示範1(面抜き) 8. 肩隊形(T-Ss)での面抜き面の練習 (1)T:面を打つ S:左斜後にさばく (2)S:面を打つ (3)T-S:元に戻る(1,2,3のリズム) ※T, S交代して元立ち練習 9. 対人隊形(Sm-Sk)での面抜き面の練習 ・礼法(9歩の間で搦刀・立礼→帯刀→9歩前進・踏踏・抜刀)、構え ・SmはTの動きでSkに打ち込む ・SkはSmの打ちに対応して有効打突の条件を満たす打ちを出す ・役割を交代する ・礼法(踏踏・帯刀→6歩後退→提刀・立礼)、相手交代 10. 抜き技の示範2(面抜き) 11. 肩隊形(T-Ss)での面抜き面の練習 (1)T:面を打つ S:右斜前にさばくながら脚を打つ (2) T-S:右斜後に下がって左へ戻る(1,2,3,4のリズム) ※T, S交代して元立ち練習 12. 対人隊形(Sm-Sk)での面抜き面の練習(9.に同じ)	◎技の分類の理解 ◎斜め方向の送り足を満たす抜き技のための体さばきの理解 ◎面打ち後、構え足に戻る T:教師 S:生徒 Sm:元立ち(Tの動き) Sk:掛り手 ◎正しい所作 ◎動身・姿勢・刃降・移動・拵打ちでの振り止め・重心 ◎安全に配慮して元立ちができる ◎元立ちの技に合わせて技を出す ◎脚打ち後、構え足に戻る T:教師 S:生徒
まとめ	13. 使った用具を片づける。 14. 本時のまとめを行う。 (1)教師の評価を聞く (2)授業評価を記入しながら、本時を振り返る 15. 正座、黙想、坐礼	・協力して片付けるよう促す ・つまづいている生徒へのアドバンスや生徒同士の学び合いの必要性を説明する ・授業評価票(生徒用)の配布

本時の展開(8/10時間)

1. 本時のねらい
 - ・様々な応じ技の種類を理解する。
 - ・タイミングを併せて体をさばくから相手の木刀を制する。
 - ・相手の技を制して(打ち落とし、すりあげ)、生じた隙に技を出す。
2. 本時の学習評価
 - ・仕掛け技との連いを説明することができる。
 - ・前後や斜め方向の送り足を早くすることができる。
 - ・元立ちとの技を見極めて技を出すことができる。

	学習内容・活動	評価方法及び評価基準(◎)
はじめ	1. ランニング(軽いペースで体育館3周)を行う。脱靴 2. 木刀を持って整列 3. 正座、黙想(30秒)、坐礼 4. 本時の説明を聞く 5. 準備体操・送り足の足踏み(斜め方向)・素振り(礼法の確認)を行う。	◎相手の木刀を制するのに必要な基本動作を修得し、相手の技に応じて有効打突の条件を満たす技を出せるかを評価する ◎構えの目で斜め方向にスムーズに動けるか
なか	6. 板書説明 (1)応じ技の種類 (2)応じ技の中の打ち落とし技・すりあげ技 7. 技の示範1(脚打ち落とし) 8. 肩隊形(T-Ss)での脚打ち落とし面の練習 (1)T:面を打つ S:左斜後にさばいて打ち落とし (2)S:面を打つ (3)T-S:元に戻る(1,2,3,4のリズム) ※T, S交代して元立ち練習 9. 対人隊形(Sm-Sk)での脚打ち落とし面の練習 ・礼法(9歩の間で搦刀・立礼→帯刀→3歩前進・踏踏・抜刀)、構え ・SmはTの動きでSkに打ち込む ・SkはSmの打ちに対応して有効打突の条件を満たす打ち技を出す ・役割を交代する ・礼法(踏踏・帯刀→6歩後退→提刀・立礼)、相手交代 10. 技の示範2(面すりあげ) 11. 肩隊形(T-Ss)での面すりあげ面の練習 (1)T:面を打つ (2)S:すりあげながら後ろに下がりがり、前へ出て面を打つ (3)T-S:元に戻る(1,2,3のリズム) ※T, S交代して元立ち練習 12. 対人隊形(Sm-Sk)での面すりあげ面の練習(9.に同じ)	◎応じ技の種類理解 ◎斜め方向の送り足を満たす打ち落とし技のための体さばきの理解 ◎面打ち後、構え足に戻る T:教師 S:生徒 Sm:元立ち(Tの動き) Sk:掛り手 ◎正しい所作 ◎動身・姿勢・刃降・移動・拵打ちでの振り止め・重心 ◎安全に配慮して元立ちができる ◎元立ちの技に合わせて技を出す ◎脚打ち後、構え足に戻る T:教師 S:生徒
まとめ	13. 使った用具を片づける。 14. 本時のまとめを行う。 (1)教師の評価を聞く (2)授業評価を記入しながら、本時を振り返る 15. 正座、黙想、坐礼	・協力して片付けるよう促す ・つまづいている生徒へのアドバンスや生徒同士の学び合いの必要性を説明する ・授業評価票(生徒用)の配布

本時の展開(9/10時間)

1. 本時のねらい
 - ・学習した技を復習し、型として演武する。
 - ・技に必要な基本動作を再確認する。
 - ・有効打突の基準を再確認する。
2. 本時の学習評価
 - ・仕掛け技(1本打ち、連続、引き)と応じ技(抜き・打ち落とし)の理合を理解している。
 - ・すり足の送り足、刃筋の通った振り、振り止め、正しいばせり合いを行うことができる。
 - ・姿勢(声)、姿勢、物打ちと部位、刃筋、残心を伴った技を出すことができる。

	学習内容・活動	評価方法及び評価基準(◎)
はじめ	1. ランニング(軽いペースで体育館3周)を行う。脱靴 2. 木刀を持って整理 3. 正座、黙想(30秒)、坐礼 4. 本時の説明を聞く 5. 準備体操・送り足の足踏み・素振り(礼法の確認)を行う。	安全に配慮して元立ち、掛かり手の役割を演武することのできるか、技の動きや意味を理解しているか、真剣に取り組むことができるか。 ◎評価基準 有効打突 1. 氣勢(大きく、真剣な声) 2. 姿勢(自然体、足さばき) 3. 打突部・打突部位(部位に届く間合) 4. 刃筋(刃の方向と木刀操作) 5. 残心(気を抜かず元に戻る)礼法 1. 心がかもっている 2. 正しい所作
なか	6. 板書説明 (1)形の方法 (2)技の種類と順番 7. 形の示範 (1)一本打ちの技・面 (2)連続技・面胴 (3)引き技・引き面 (4)抜き技・面抜き胴 (5)打ち落とし技・胴打ち落とし面 8. 肩降形(T-S)での演武練習 9. 対人降形(Sm-Sk)での演武練習 ・礼法(9歩の間で握刀・立礼→帯刀→3歩前進・踏返・抜刀)、構え ・7の(1)～(6)の演武 ・役割を交代する ・礼法(踏返・納刀→6歩後退→握刀・立礼)、相手交代 ・演武組み合わせ(カッコは評価者) A(G)-B(D) C(A)-D(B) A(C)-D(B) B(A)-C(D) ※相互評価でアドバイスを行う 10. 全体での通し練習	◎自分の特長技を選択し、正しく演武できるか ◎元立ちの役割を演武して協力して演武できているか ◎評価の観点を理解しているか
まとめ	11. 使った用具を片づける。 12. 次回(演武テスト)の説明を行う。 13. 正座、黙想、坐礼 授業評価を記入しながら、本時を振り返る	・協力して片づけるよう促す ・授業評価票(生徒用)の配布

本時の展開(10/10時間)

1. 本時のねらい
 - ・元立ちと掛り手の役割を理解して形を演武する。
 - ・正しい礼法を所作にのっとり行う。
 - ・他の生徒の礼法や演武する技の良し悪しについて評価する。
2. 本時の学習評価
 - ・礼法や技の評価の観点を理解している。

	学習内容・活動	評価方法及び評価基準(◎)
はじめ	1. ランニング(軽いペースで体育館3周)を行う。脱靴 2. 木刀を持って整理 3. 正座、黙想(30秒)、坐礼 4. 演武テストの要領説明を聞く	
なか	5. 組み合わせ(ペア)の決定と形演武の練習 (1) 握り刀 立礼 帯刀 3歩前進 抜刀 踏返 立ち上がり (2) 1本目(面打ち・必修) (3) 2, 3本目(仕掛け技)のいずれか (4) 4, 5本目(応じ技)のいずれか (5) 元立ちと掛り手を交代して(2)～(4) (6) 踏返 納刀 立つて3歩後退 握り刀 立礼 6. 演武テストとその評価 第1組から順に演武 他者の演武の評価を行う 7. 全員で素振り	◎自分の特長技を選択し、正しく演武できるか ◎元立ちの役割を演武して協力して演武できているか ◎評価の観点を理解しているか
まとめ	8. 使った用具を片づける。 9. 単元の振りかえり(評価を聞く) 10. 正座、黙想、坐礼	

資料6

剣道の単元(10時間)に対する評価(教師用)

この取り組み(剣道の模擬授業10時間)を実施・見学しての感想として当てはまる数字に○をしてください。

記入者氏名

	1:全くそう思わない	10:とてもそう思う
1: 自分で授業を行う見通しが立った	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
2: もっとレベルの高い内容に工夫できそうである	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
3: この内容を参考に学習量を少なくしてゆったり指導 したい	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
4: 全別のプログラムを作る必要を感じる	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
5: 剣道にはTAの能力が不可欠である	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
6: 見本を示す自信がある	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
7: 生徒の良いモデルの模倣ができそうである	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
8: 木刀による形の学習でも生徒の興味を喚起でき そうである	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
9: 授業で使ったゴム製木刀でも安全柱に問題があ る	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
10: 形の学習と竹刀防具打ち込み形式の学習では形 の方が危険である	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
11: 剣道の授業は竹刀防具で行うべきである	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
12: 竹刀防具による剣道授業で同じような取り組みが 必要である	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
13: 自分が見本を示せるようになるための研修がした い	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
14: 形でも木刀、竹刀防具でも中学生に剣道の授業 を行ふことの意義を感じる	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	
15: 形であれ竹刀防具であれ、生徒の実績を考えると 剣道をおこなうことに不安を感じる	(1...2...3...4...5...6...7...8...9...10)	

感想を自由にお書きください

おつかれさまでした